

ELECTRONIC TRANSLATION MACHINE

Publication number: JP2042570
Publication date: 1990-02-13
Inventor: INAMORI YOSHIMITSU; TAKADA HIROSHI
Applicant: SHARP KK
Classification:
 - international: G06F17/28; G06F17/28; (IPC1-7): G06F15/38
 - european:
Application number: JP19880194023 19880803
Priority number(s): JP19880194023 19880803

Report a data error here

Abstract of JP2042570

PURPOSE: To display many conversation sentences by storing and selecting word data and sentence data independently of each other. **CONSTITUTION:** When, based on an initial screen (1) showing a fact that a guide mode is selected via a guide key, the 'restaurant' and the 'Korean meal of fixed menu' are selected with a category key and a forward feed key respectively, it is shown in the display (2). When an example key is pushed, the title data 'Korean meal of fixed menu' is put into << >> and the title data is specified. In this case, a sentence corresponding to the title data is also displayed and can be changed to the display (4) by means of the forward feed key or a reverse feed key. Then the display (4) is translated into the Korean and displayed (5) by a translation key, and the pronunciation is displayed (6) in KATAKANA (square for of Japanese syllabary) by a pronunciation key. In this case, the title data is also put into < > and the words are discriminated from sentences. Thus the word and sentence data stored in such a way are selected separately from each other. Then the conversation sentences prepared by a conversation sentence preparation means are translated. In such a way, the types of collected data are increased and many conversation sentences are displayed.

| 操 作 | 表 示 | |
|---------------------------------|------------------------|---|
| [PZZ] | 日 本 組 J'イ | ① |
| [NLS] 40 [MENU] (1234567890) | 韓 定 食 | ② |
| [F1] | 韓 定 食 を 選 び 前 下 こ い | ③ |
| [NLS] | 韓 定 食 を 選 び 前 下 こ い | ④ |
| [JST] | 韓 定 食 を 選 び 前 下 こ い | ⑤ |
| [KAT] | 韓 定 食 を 選 び 前 下 こ い | ⑥ |

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平2-42570

⑬ Int. Cl.⁵
G 06 F 15/38識別記号 庁内整理番号
A 7313-5B

⑭ 公開 平成2年(1990)2月13日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 電訳機

⑯ 特 願 昭63-194023

⑰ 出 願 昭63(1988)8月3日

⑱ 発 明 者 稲 森 良 充 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シヤープ株式会社
内⑲ 発 明 者 高 田 博 史 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シヤープ株式会社
内

⑳ 出 願 人 シヤープ株式会社 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

㉑ 代 理 人 弁理士 青 山 葆 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

電訳機

2. 特許請求の範囲

(1.) 表示手段に表示した会話文を他の言語の
会話文に翻訳して上記表示手段に表示する電訳機
において、単語データと文章データを別々に記憶する記憶
手段と、上記記憶手段に記憶された単語データと文章デ
ータを別々に選択して、会話文を上記表示手段に
表示する会話文作成手段を備えて、上記会話文作成手段により作成された会話文を
翻訳するようにしたことを特徴とする電訳機。

3. 発明の詳細な説明

<産業上の利用分野>

この発明は、電訳機に関する。

<従来の技術>

従来、電訳機としては、所定の言語(例えば日
本語)の単語と、その単語に対応した文章を組み合わせて一つの会話文として記憶しておき、記憶
した会話文を表示して、表示した会話文を他の言
語(例えば韓国語)の会話文に翻訳して表示するよ
うにしたものがある。例えば、下記のような会話
文が記憶され、表示される。

(例)1. (航空公司)まで乗せて行ってください。

2. (航空公司)に電話をかけてください。

3. (空港)まで乗せて行ってください。

<発明が解決しようとする課題>

ところで、上記従来の電訳機では、上記例文に
示されるように、単語(固有名詞又は一般名詞)が
会話文の中で()で区切られて表示されているが、
メモリには単語と文章とが組み合わされて一つの
会話文として記憶されている。従って、同一単語
や同一文章を重複してメモリに記憶する必要があ
る。例えば、上記例文でいえば、(航空公司)と(乗
せて行って下さい)とがそれぞれ重複して記憶さ
れる。このため、収容できるデータの容量がすく
なくなり、表示できる会話文の数が少なくなると
いう問題があった。

そこで、この発明の目的は、収録できるデータの種別を多くして、表示できる会話文の数を多くすることができる電訳機を提供することにある。

＜課題を解決するための手段＞

上記目的を達成するため、この発明は、表示手段に表示した会話文を他の言語の会話文に翻訳して上記表示手段に表示する電訳機において、単語データと文章データを別々に記憶する記憶手段と、上記記憶手段に記憶された単語データと文章データを別々に選択して、会話文を上記表示手段に表示する会話文作成手段を備えて、上記会話文作成手段により作成された会話文を翻訳するようにしたことを特徴としている。

＜作用＞

記憶手段が単語データと文章データを別々に記憶し、会話文作成手段が、上記記憶手段に記憶された単語データと文章データを別々に選択して、会話文を表示手段に表示する。その後、上記会話文作成手段によって作成された会話文が翻訳される。従って、収録できるデータの種別が多くなり、

表示できる会話文の数が多くなる。

＜実施例＞

以下、この発明を図示の実施例により詳細に説明する。

第1図はこの発明の電訳機の一実施例の外観図である。

第1図において、1はドットマトリックスで構成されたLCD表示部、2はキー入力部である。

上記キー入力部2は2aから2fで示すキーを有している。すなわち、2aは電訳機モード(会話・単語電訳モード)キーとガイドモード(韓国ガイド情報電訳モード)キーと計算/通貨換算モードキーからなるモードキー、2bは言語選択キーと翻訳方向キーと会話/単語キーからなり、上記モードキー2aが電訳機モードやガイドモードを選択している場合に、翻訳する会話・単語あるいはガイド情報の言語および翻訳方向を選択するキーである。また、2cはキータッチ音のON/OFFを行う一方、機能キー2dが有効な場合にLCD表示濃度を変更するためのキー、2eは表示されている

国語が表示されているときにその発音をカタカナで表示させるための発音キーである。また、2fは機能キー、2fは表示データの前後のデータを表示させるための順送り・逆送りキーである。

第2図は上記電訳機の回路構成を示すブロック図である。

第2図において、21はこの電訳機の制御を行うCPU、22はこの電訳機を動作させるためのプログラム及び電訳機データを格納しているROM、23は上記ROM23のメモリアクセスを切り換えるためのゲートアレイ、24はポインティングおよび表示ワーキング用のRAM、25は表示を行うためのLCD、26は上記LCD25の駆動制御を行うLCD駆動回路、27はキー入力を検出するためのキーマトリクスである。

第1図に示すキー入力部2の操作とその操作に伴う表示の一例を第3図に示す。

第3図において、①はガイドキーでガイドモードを選択したときの初期画面である。ここで、カタカナキー“レストラン”と順送りキーにより例文

画面の上下にデータを表示させるための前画面および次画面送りキーである。2eは基本会話キー、あいさつキー、・・・、緊急キーからなる使用場面毎に分類されたカテゴリキーである。また、2fは0-9の数字キー、小数点(.)キー、四則演算キー、%(パーセント)キー、通貨換算キー等のキーからなる演算キーであり、これらのキーはモードキー2aで計算/通貨換算モードが選択されている時に有効なキーである。

また、2aは情報キーであり、モードキー2aでガイドモードが選択されている時に有効であり、韓国ガイド情報(ホテル名、料理名等)における電話番号・住所・解説等を表示させるためのキーである。2bは例文キーであり、上記ガイドモード時に有効で、韓国のガイド情報(ホテル名、料理名等)が画面表示されているときに、それらのデータ(以下表題データとよぶ)を主語として、使用頻度の高い文章を結合させ、会話文として表示させるためのキーである。2iは会話・単語及び表題データを他の言語に翻訳させるキー、2jは外

にした単語(表題データ)である“韓定食”を選ぶと②の表示となる。次に、④で例文キーを押すと上記表題データ“韓定食”は< >の中に格納され、選択された表題データが明確にされる。この時、表題データに対応した文章も同時に表示されるが、この文章は順送りキー又は逆送りキーを押すことにより④に示すように目的の文章に変更することができる。次に、⑤で翻訳キーを押すことにより④で表示された例文が韓国語に翻訳される。そして、この韓国語の発音を知りたい場合には、発音キーを押すと⑤に示すようにその発音が日本語のカタカナで表示される。この場合にも、表題データが< >の中に格納され、単語と文章との区別化が図られている。

第4図は、第2図に示すROM2の単語部に格納された単語と、上記ROM2の文章部に格納された文章と、これらの単語と文章を別々に組み合わせて作成された会話文(例文)の一例を示したものである。

この第4図に示すように、単語のカテゴリ毎に

結合できる文章部を別々に持つことにより、その場に適した会話文(例文)を構成することが可能である。また、従来の電訳機では、第4図に示す例文をすべてデータとして記憶していたため収録例文数が少なかったが、本実施例の電訳機では、単語部の単語の数と文章部の文章の数の積だけ例文を表示させることができるので例文数が多くなる。また、単語部のデータあるいは文章部のデータに特殊なデータを持たせることにより、あるデータのみ文章部を変更して別の例文を表示させたり、例文を表示させなかったりする事も可能である。

<発明の効果>

以上より明らかなように、この発明の電訳機は、単語データと文章データを別々に記憶する記憶手段と、上記記憶手段に記憶された単語データと文章データを別々に選択して、会話文を上記表示手段に表示する会話文作成手段を備えて、上記会話文作成手段により作成された会話文を翻訳するようにしているので、取替できるデータの種類が多くなり、表示できる会話文の数が多くなる。

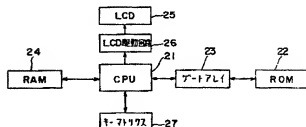
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の一実施例の外観図、第2図は上記実施例の回路構成を示すブロック図、第3図は上記実施例におけるキー操作とそれに伴う表示の一例を示す図、第4図は上記実施例において作成される例文を示す図である。

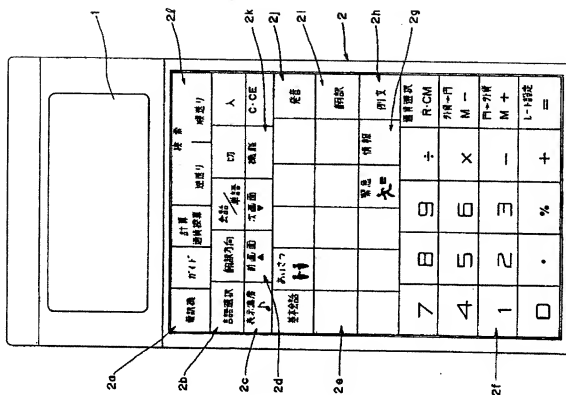
- 1…表示部、2…キー入力部、21…CPU、
22…ROM、23…ゲートアレイ、
24…RAM、25…LCD、
26…LCD駆動回路、27…キーマトリクス。

特許出願人 シャープ株式会社
代理人 井澤士 青山 森 ほか1名

第2図



第 1 図



第 3 図

| 操 作 | 表 示 | |
|-----------------------------|---------------------|---|
| ガイド | 日 ▶ 韓 ガイド | ① |
| 1人1人 (減減) (1人1人キ) | 韓 定 食 | ② |
| 1人1人 | 《韓 定 食》を1人 前下さい。 | ③ |
| 減減 | 《韓 定 食》を2人 前下さい。 | ④ |
| 韓国 | 《한정식》이인 분 주세요 | ⑤ |
| 減減 | 《한정식》이인 분 주세요. | ⑥ |

第 4 図

